

HUMAN RIGHTS

身近に福祉を考える

～「何かできることを」の想いから～

美原うずしおの会（堺市：旧美原町）

美原うずしおの会は、設立して8年目を迎えました。

最近では、身近に福祉を考える機会が増えましたが、設立当初は、障がいを持った人が、街に出かけることが少なく、関心も低く感じられました。そのような時に、たまたま南大阪大学での公開授業で講師を務められた蔦田夫妻と盲導犬フラッシュ君に会うことが出来ました。お二人の力強く生きてこられた姿とフラッシュ君の役割を聞いて、非常に感動しました。この日を機会に「何かできることを」との想いが強くなり、この会を立ち上げました。

今では、「身体障害者補助犬法」の制定で補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）に対する理解は、得られてきました。しかし、認知度は充分とはいえず、まだまだ、社会全体への働きかけが必要です。

当会では、一昨年、「補助犬同伴可ステッカー」の貼付を目的とする要望書を南河内地区全市町村に提出しました。これには、各市町村も快く応じていただき、公共施設の出入口に貼っていただきました。このステッカーを見られた子どもから大人までの方々が「何のステッカー？」と疑問を持ち、意識してくださることを期待しています。



ステッカー貼付協力施設



草の根人権活動賞受賞式

当会は、このような意識の芽が渦のように広がってくれることを願って「うずしお」と名前をつけました。美原町は、今年2月に堺市と合併しました。このステッカーが堺市にも広がればと期待しています。

福祉の活動については、教育・生活などすべての面での保障活動であり、けっして、他人事ではなく、自分自身のこととして考えていけば、色々なことが見えてくると思います。今まで考えるきっかけがなかった方も、気になることから行動へと移してみたいかがでしょうか。「できることを」「できるときに」健常者側の一方的な思い込みの動きにならないように。

当会は、ネットワークとは、組織間だけでなく個人とすべての機関が連携するものと考えます。人材や財源は、足らなければ集めることを考え、出来ないことは、支援を受ければよいと考えます。難しく悩むことはありません。一人の力は、小さいですが、多くの人の力を借りれば案外うまくいくものです。

私たちの会は、これからも「福祉は、生活」という観点に立ち、山積みにされている課題を障がいを持つ人の立場にたって、考えていきたいと思っています。